

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New30号 2008年8月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 「ポリシーは、ゆっくり、小さく、続けること」 長谷川 輝美	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
編集長の著者インタビュー 『認知症予防ゲーム』の著者 高林美結樹さんに聞く	(14)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の新着情報です	(15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (5・6・7月)	(16)
Women's Books からの風 「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

巻頭言

「ポリシーは、ゆっくり、小さく、続けること」

ウィメンズショップ・パッチワーク代表 長谷川 輝美

暑さに辟易しながら騒々しい五輪報道に接していると、13年前の夏同じ北京で開催された世界女性会議のことを思い出します。開会式へ向かう色鮮やかな民族衣装に身を包んだ堂々とした体躯のアフリカの女性たち、重たいビデオカメラを肩にサリートの裾を翻すインドのジャーナリスト、様々な国々の女性たちと肩を並べて歩いた高揚感忘れたいものでしたが、短い滞在の中でその感動は次第に弱まり、逆に何とも言えない焦燥感を味わうことになりました。

それというのも、当時盛んに言われていた日本の女性運動に特徴的な「受信するばかりではない発信型の会議参加」をめざして会議の2年前から準備を重ね、手続きも旅行会社を頼らずすべて自力で行い勇んででかけたはずが、貧弱な語学力ゆえに実際は広いNGOフォーラムの会場を右往左往するばかり。発信はおろか、受信すらままならなかったからです。結局北京会議の全容を知ることになったのは、「行動綱領を読む会」を作って学習に取り組んだ1年近く後のことでした。ただ悔しい思いをした分、綱領がめざす「貧困の女性化」の解消という地球規模の課題を自分たちの頭で考えられるようになったことは、大きな収穫でした。

さて次は何をなすべきかと思案していた時、東京ウィメンズプラザ(東京女性財団)主催の「社会参画講座」を受講したことが縁で、撤退する売店の次の事業者を募集していることを知ったのです。女性運動の交差点に、自分たちがあったらいいなと思えるホッとできる空間を演出したい、そんな思いから北京で苦楽をともにした仲間たちを中心に出資を募り、プロジェクト・パッチワ

ークを結成。安心・安全な食とものにこだわるフェアトレードの店「ウィメンズショップ・パッチワーク」(通称・パッチ)を開店したのが1998年5月10日で、今年奇しくも世界フェアトレードデーに10周年を迎えました。

「よく続いたわねえ」という周囲の反応に頷きながらも、10年という大きな節目の感慨は迎えてみると実にあっけないものでした。計画を思い立ってからオープンまで3カ月、起業前の準備もハードでしたが、もっていたいへんだったのは毎日営業を続けることの方でした。店の運営はフルタイムの仕事を持つ私たち出資者兼ボランティアとアルバイトの有償スタッフの共同作業で、毎日のシフトは名前の通りパッチワーク状態。専従者のいない中での運営は試行錯誤の連続でしたが、一方で「フェアトレードを通じて女性のエンパワメント」という活動のつながりで、04年北区男女共同参画センター・スペースゆうでの常設展示、05年埼玉県にある国立女性教育会館のフェアトレードショップ運営と持ち場が広がっていきましました。

ウィメンズプラザ自体も財団による女性情報の発信拠点から東京都の直営に変わって、利用者の層も問題意識をもつ女性たちから、趣味の会やスーツ姿の男性も訪れる場へと間口が広がりました。会館の機能に魅力を感じて地の利を活かした発信をめざしたはずなのにと最初の頃の活気を振り返ることもありますが、今はこの場所だから出会えた様々な分野の女性たちとのつながりをもう一度ここに引き寄せたいと思うようになりました。お買い物を通して国際協力・フェアトレードを、女性たちのエンパワメントを応援するという目的を鮮明にして、ウィメンズプラザにふさわしいウィメンズショップ・パッチワークをめざしたい、これが次のステップのためのミッションです。



▲ウィメンズショップ・パッチワーク

最新刊情報

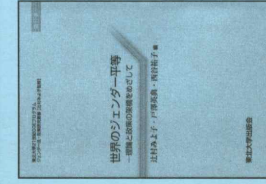
フェミニズム・女性学……(2)
 女性史・歴史……(3)
 自伝・評伝……(4)
 高齢・福祉……(5)
 メディア……(6)
 セクハラ・暴力……(6)

こころ・癒し……(7)
 労働・仕事……(8)
 法律・政治・政策……(8)
 文学・エッセイ・芸術……(9)
 セクシュアリティ……(10)
 からだ……(11)

資料……(11)
 子育て・教育……(12)
 家庭・家族・衣食住……(12)
 平和・開発・エコロジー・雑誌……(13)
 絵本・子ども……(14)



世界のジェンダー平等 東北大学21世紀COE プログラム 理論と政策の架橋をめざして



辻村よ子、戸澤英典、西谷祐子/編
 東北大学出版会 2008年3月 2310円
 「理論と政策の架橋をめざして」と銘うち、米国・中国・カナダ・イタリア・韓国等々、世界各地のジェンダー平等をめぐる法や政策的展開に迫っている。4年を費やした「東北大学COEプログラム・ジェンダー法・政策研究叢書」もこれで全12巻が刊行されたことになる。

女性が福祉社会で生きるといふこと

杉本貴代栄/著 勁草書房 2008年5月 2625円

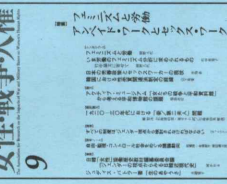


著者の4冊目の「論文集」。現行の福祉社会における様々なジェンダー課題を論じた論文9編と映画評、書評の9コラムから成っている。著者の幅広い仕事を知られることができる。

ジェンダー平等な福祉社会を実現するためには、①社会保障制度の「平等化」②ケア労働の自律 ③セーフティネットの整備が必須だと著者は説くが、同時に、その実現が大変なことも論述されている。

女性・戦争・人権9

「女性・戦争・人権」学会学会誌編集委員会/編
 行路社 2008年6月 2100円



特集は「フェミニズムと労働、アンペイド・ワークとセックス・ワーク」。「女性・戦争・人権」学会シンポジウムの報告として「フェミニズムと労働」(岡野八代)「いま労働のフェミニズム分析に求められるもの」(竹中恵美子)などが掲載されている。その他、水島希、山下英愛など。

中国都市の生活空間 社会構造・ジェンダー・高齢者

荒井良雄、岡本耕平、田原裕子、柴彦威/著
 ナカニシヤ出版 2008年4月 3885円

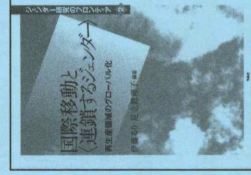


急激な改革開放経済のもとで急成長する中国の都市で展開されている住民の生活を、ジェンダーや高齢化の側面から考察している。中国の都市住民の生活が、データをを用いて分析されており、日本との比較もなされている。

【フェミニズム・女性学】

国際移動とく連鎖するジェンダー→ジェンダー研究のフロンティア2 再生産領域のグローバル化

伊藤るり、足立眞理子/編著 作品社 2008年4月 2625円



国境を越え、女性が「移住労働化」していくグローバル時代、「再生産領域」もグローバル展開し、ジェンダー秩序が国境を越えて連鎖していく。本書では、家事労働者の海外就労、人身売買、国際結婚、ケア、高齢化などの諸相から、ジェンダー秩序の新たな広がりについて考察。ジェンダー問題を単一の国民国家の枠で扱うことは、もはや不可能である。

女女格差

橋本俊詔/著 東洋経済新報社 2008年6月 1890円



親の経済力、受けた教育の程度、結婚、非婚、子どもをもつか否か、専業主婦か共働きか、総合職か一般職か、正社員かパートか、美人か不美人かなどによって生まれる女同士の格差を検証。それが合理的か否かを分析する。「女女格差」にも「男女格差」の構造が大いに影響を与えていることがわかる。

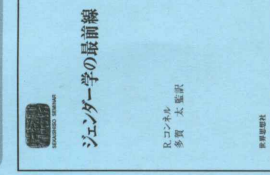
現代「女」の一生 人生儀礼から読み解く

関沢まゆみ/著 日本放送出版協会 2008年6月 1019円



出生、初潮、結婚、死と、いくつかの節目を重ねつつ生きていく生。節目ごとに、十三参り、結婚式等の「儀礼」を通していくが、その「儀礼」も近年、「個人化」「私事化」が進む。明治末から現代に至る100年の女性たちの生活変化を「儀礼」からとらえたのが本書。わずか100年の間の激変と根本的部分での不変に、改めて驚く。

ジェンダー学の最前線



R・コンネル/著 多賀太/監訳
 世界思想社 2008年7月 2415円

『ジェンダーと権力』(三交社、1993年)で日本でも知られているレイウイン・コンネルによるジェンダー学のテキスト。実に幅広い分野について、最新のグローバルな社会情勢をふまえた捉え方が呈示されている。今世紀に入ってから、日本でのバックラッシュ現象とどう向き合ったのかを探る上でのヒントも読み取れる。

テクノバイオ・ポリティクス ジェンダー研究のフロンティア4 科学・医療・技術のいま

舘かおる/編著 作品社 2008年4月 2625円

生殖技術・再生医療などの展開と情報社会の到来は、科学研究に新たな「ポリティクス」をもたらしている。ジェンダー公正の視点からそれを見ると、身体や性別が、商業と一体化して扱われる様が見えてくる。ジェンダー研究の最新分野を拓こうという「フロンティア」シリーズ第4巻。

新訂 ジェンダーの社会学

伊藤公雄/著 (財)放送大学教育振興会 2008年3月 2415円

放送大学2008年度開始専門科目「ジェンダーの社会学」のテキスト。大変わかりやすく、全般的にまとめられているので、最初の一冊として最適。

ジェンダー経済格差 なぜ格差が生まれるのか、克服の手がかりはどこにあるのか

川口章/著 勁草書房 2008年5月 3255円

ジェンダー経済格差に直接影響を及ぼす、日本的雇用制度を考察。この雇用制度は、性別分業と強い相互依存関係にあることを明らかにする。何よりも、ワーク・ライフ・バランスがとれておらず、そのため女性が働きにくいことが経済格差の原因だという。WLBを可能にする雇用制度を実現するために何が必要かを論じている。

キャリア・ベックメレム 男女格差のない社会

キャリア・ベックメレム+坂東眞理子/著 NHK出版 2008年3月 997円

ノルウェーで市議会議員から国会議員になり、「子ども・平等省」大臣も務めたキャリア・ベックメレムと坂東眞理子の対談。ノルウェーがつくり出した「男女平等」の具体的状況が、ベックメレム大臣の口を通して語られている。ベックメレム大臣の原点は「弱者へのまなざし」

女性と美の比較文化

鳥越成代/編 勁草書房 2008年3月 2310円

「きれい」とは、「美」とは、何か。自分のからだを変えようとするための努力は先史時代にさかのぼるし、これまでもずっと続くだろうと、この本にはある。この奥深いテーマに、哲学、文化人類学、美術、メディア論など随所から迫ったのが本書。

ジェンダー学への道案内

高橋準/著 北樹出版 2008年5月 2100円
1年半前の初版を改訂。均等法の改正(2007年)をおりこんだ。「ジェンダーって何?」から始まり、フェ

ミニズム、労働、家族、セクシュアリティなど、基本的なところから学ぶのに良い。

身体とアイデンティティ・トラブル ジェンダー/セクスの二元論を超えて

金井淑子/編著 明石書店 2008年5月 2520円

身体の資源化、あいまいな性、過食、摂食、自傷などなど、「身体をめぐる状況全体はセクシャル」である。本書は、それを前提に、「身体の兆候を『よりトラブル化する』」ことにより、その状況を読み解き、「男女という二元論と異性愛中心主義体制にゆさぶりをかけよう」としている。

輝やく女性たち Part II セミナーからみつけたもの

「じょねつと・すいた」編集部/編 2008年3月 1050円

吹田市女性問題セミナー修了者の集まりである「じょねつと・すいた」(女性のネットワークすいた)が、この10年の会や会員の歩みを記録して出版した。区切りをつけ、それぞれの会員が、セカンドステージに向かうことになったという。

女性と高等教育 機会拡張と社会的相克

香川世つ子、河村貞枝/編 昭和堂 2008年7月 4410円

みえにくくなったとはいえ、「現在もおお高等教育にはジェンダーの非対称性が存在する」という問題意識を前提に、本書は、「女性の高等教育」が近代以降の先進国で生成した道程をたどり、その歴史の意味を考察している。第I部「グローバル化、トランスナショナルリズムと女子教育」 第II部「高等教育へのアクセスとその周辺」 第III部「母性主義」のポリティクス

格差社会を生きて 男と女の新ジェンダー論

杉井静子/著 かもがわ出版 2008年7月 1890円

大学での「ジェンダー研究入門」の講義から、この本が生まれた。「格差社会」といわれるが、それを超えるには、ジェンダー視点で「おかしい」ことは「おかしい」と声をあげていくことであると著者。DV等の分野で積極的に活動している弁護士である。

ジェンダー 近代ヨーロッパの探求11

望田幸男、村岡健次/監修 姫岡とし子、長谷川まゆ帆、河村貞枝、松本彰、中里見博、砂山充子、菊川麻里/著 ミネルヴァ書房 2008年7月 4725円

ヨーロッパ近代史の中で、「ジェンダー」はどのようなメカニズムで作用し、どう影響を与えてきたのか。主として女性史、ジェンダー史の視点から考察。多様な論点からの力作が7編並んでいる。

〔女性史・歴史〕

国家売春命令 新版 みんなは知らない



小林大治郎、村瀬明/共著 雄山閣 2008年5月 2940円

1961年に初版が刊行され、以後、再版され続けて4版目。第2次大戦後すぐ、売春組織「国際親善協会」がつかられ、「国家売春」システムができあがった。その後その多くが「パンパン」として街へ流れていく。当時、「みんなは知らない」この事情をルポし、記録に留めたのが本書だった。巻頭の写真が生々しい。

モノと男の戦後史

石谷二郎、天野正子/著 吉川弘文館 2008年7月 2940円



「モノと女」の戦後史」(有信堂高文社)の続編。「男の居場所」「男の身体」「男の表象」の3つの柱のもと、喫茶店、墓、ランチ、スーツ&ネクタイ等々のモノが考察されている。1945年夏、丸裸となった日本の男たちから、「モノづくり」「モノの売り買い」へと戦後をばく進してきた男たちまでを、「モノ」によって解析。戦後史があらぶり出される。

女性・仕事・教育 イギリス女性教育の近現代史

滝内大三/著 晃洋書房 2008年3月 3675円
19世紀末から20世紀前半にかけてのイギリス女子教育の状況を論じている。巻末に「どのようにして女性を生計を立てればよいか」というタイトルの19世紀の古書翻訳がついているが、ヴィクトリア時代の女性解放運動のナマ資料として興味深い。

平安朝の女と男 貴族と庶民の性と愛

服藤早苗/著 中央公論新社 1995年4月 798円
『今昔物語集』や『伊勢物語』、当時の公卿たちの日記などを使い、王朝時代の男女の関係を描く。

平安朝の母と子 貴族と庶民の家族生活史

服藤早苗/著 中央公論新社 2006年10月 861円
王朝時代の結婚・家族・子育て、子どもたちの生活などについて考察。王朝期は「家」の成立、父権の確立が途上にあった一大転換期。貴族と庶民の生活の両方に、現代に通じる「家族」問題をみるこ

フランス女性の世紀 啓蒙と革命を通して見た第二の性

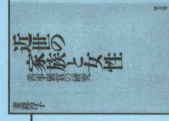
植田祐次/編 世界思想社 2008年6月 2310円
フランスの18世紀は「女性の世紀」であるという。女性たちは「自立した生」を主張しはじめ、自らを表現しはじめた。男性作家たちも、その姿を作品に描き始めた。革命の世紀でもあり、フランスの18世紀は、まさしく、激動していた。

いずみ野に燃ゆ 織布工場—乙女たちの闘いの記録

いずみ近現代史を語る会/編
泉南歴史民俗資料センター 2008年8月 1300円
1960年代、泉州の紡績・織物工場で展開された女子繊維労働者の組合運動の記録が冊子となった。貴重な資料である。

近世の家族と女性 善事褒賞の研究

妻鹿淳子/著 清文堂 2008年4月 6090円
江戸時代の家族や女性たちの姿を、「善事褒賞」の分析を通して描き出している。「体制内化されていく社会規範と実態が正の関係で社会の中に相関させられ繋がっている」のが「褒賞制度」なのだそう。



評伝 川島芳子 男装のエトランゼ



寺尾紗穂/著
文藝春秋 2008年3月 840円
清朝の王女として北京に生まれ、一家の亡命とともに来日。日中戦争中は「男装の王女」として日中間を「乱舞」し、最後に刑死した川島芳子の壮絶な人生。

BIBAをつくった女 バーバラ・フラニツキ自伝

バーバラ・フラニツキ/著 長澤均/監修 金子美雪/訳
(株)ブルース・インターアクションズ 2008年4月 2310円

60年代半ばから70年代にかけて、BIBAというファッションブランドがあったのを覚えている人も多いと思う。本書は、75年に突如倒産したこのブランドの創立者バーバラ・フラニツキの自伝(1983年)を翻訳したもの。偉大な成功とその大きさに匹敵する挫折の物語である。



「婦人保護事業」五〇年

林千代/編著 ドメス出版 2008年6月 2940円
婦人相談所、婦人相談員、婦人保護施設から構成される「婦人保護事業」の50年をふり返って出版された。戦後11年目に制定された売春防止法であるが、そこに規定された婦人保護事業は時代とともに変遷しつつも、なお、今日の課題を追って進められようとしている。「婦人」という命名は古い感じがするが、まだまだ展開されなくてはならない事業なのである。



昔話を語る女性たち

石井正己/編 三弥井書店 2008年6月 1785円
本書の執筆者は、各地で展開される「おはなし会」や文化行政の現場で活動している研究者や教育者たち。本書で昔話を語りつぐ女性たちやその活動を紹介し、それは「生きる力」を育む活動であるとうり返す。語り部たちの話と様子を記録した「語りのライプ」もいくつか。



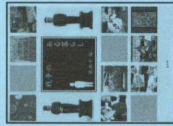
少女が知ってはいけないこと

片木智年/著 PHPエディターズ・グループ/発行所
PHP研究所/発売 2008年7月 1680円
「エデンの園」「パンドラの箱」など、神話やおとぎ話には「女性」が登場し、「罪」を犯す。著者は、リングをかじり、パンドラの箱をあけることにより「知」を得た女性の侵犯を「罪」とする「呪い」を解説。それがやがて、17世紀フランスの「美女と野獣」に示されるような「恋愛」や「心」の物語にかわっていく姿を描いている。



戦争のある暮らし

乾淑子/編 水声社 2008年8月 3150円
戦争は軍隊が遂行するだけのものではない。仕器に施された装飾、子どものおもちゃ、娯楽作品などを通じ、庶民の生活に根づき、多くの善意の人々も「協力」することにより、遂行されたのだ。子ども茶碗、人形、幻燈や紙芝居など、「戦争」が描かれたモノが集められ考察されている。



〔自伝・評伝〕

女性経済学者群像 アダム・スミスを継ぐ卓越した八人

B・ボーキン・グホーン、D・L・トムソン/著 櫻井毅/監訳
御案の水書房 2008年5月 2940円
19世紀から20世紀にかけて活躍した8人の女性の経済学者の群像。経済学の世界で女性が無きに軽視されているのを正そうという思いで、10年前に英国で出版された本の翻訳。経済学を専攻する女子学生がまだまだ少ない日本に、一石を投じたいと。



あなたがいるから、わたしがいる アフリカの子どもたちを救ったある女性の記録

メリッサ・フエイ・グリーン/著 入江真佐子/訳
ソフトバンククリエイティブ(株) 2008年3月 2520円
エチオピアで、孤児たちの母親代わりになって養育しているハレグウォイン・タファアズの半生を描いたノンフィクション。エチオピアにおけるエイズの状況、エイズ治療薬をめぐる大手薬品会社と発展途上国の問題にも言及している。

ペプロウの生涯 ひとりの女性として、精神科ナースとして

バーバラ・J・キャラウェイ/著 星野敦子/訳
医学書院 2008年4月 5460円
アメリカ看護論、看護教育の確立に大きな力を発揮したヒルデガード・ペプロウの生涯。「強烈な責任感と公正さを追求し」それがゆえに「あらゆる局面で困難に遭遇した」。

シヨッキング・ピンクを生んだ女 私はいかにして伝説のデザイナーになったか

エルザ・スキヤパレリ/著 長澤均/監修 赤塚きょう子/訳
(株)ブルース・インター・アケシヨンス 2008年7月 2310円
1920年代から50年代にかけて、フランスとアメリカを舞台に華々しく活躍し「伝説のデザイナース」といわれるに至った、スキヤパレリの自伝。

園田天光 生きがい上手

園田天光/著 たちばな出版 2008年7月 1470円
日本初の女性代議士で、各方面で活躍。現在89才の著者の最新エッセイ。

沖藤典子の介護元気で日本あっ晴れ



沖藤典子/著 医歯薬出版(株) 2008年4月 2100円
介護に携わる人材の不足から介護保険が崩壊するかもしれない。著者の主張は「介護を元気にしよう。それでこそ日本はあっ晴れの国」。せっかくなので介護保険、世界的にも注目されている。立派に育てなければ。

女性福祉の砦から 生きる力を再び得るために

東京都社会福祉協議会/編 東京都社会福祉協議会 2008年1月 900円
50年の歴史がある「婦人保護施設」。売春防止法を根拠法として設立された。本書は東京都に5つある婦人保護施設の実態、現状をまとめたもの。古めかしい名前であるが、絶えることのないDV被害者サポートに欠かせない施設であることがわかる。

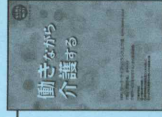


満月の夜、母を施設に置いて

藤川幸之助/詩 松尾たいこ/絵 谷川俊太郎/対談
中央法規 2008年6月 1575円
認知症になった母親の世話をする息子が書いた詩。谷川俊太郎との詩人同士の対談もいい。

働きながら介護する 女も男も No.111 2008年春夏号

労働教育センター編集部/編 (株)労働教育センター 2008年5月 1860円
Part1: 介護とジェンダー Part2: 介護保険制度活用 Part3: 職場の介護支援制度活用 Part4: 介護をきっかけに人とのつながりを考える

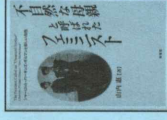


女性のための老後を生きぬく110の知恵

野原すみれ/著 北辰堂出版 2008年6月 1365円
「老後のシングルライフ」から「死にじたく」まで

不自然な母親と呼ばれたフェミニスト シャーロット・パーキンズ・ギルマンと新しい母性

山内恵/著 東信堂 2008年5月 3360円
20世紀初頭に「仕事と子育ての両立」というきわめて今日的なテーマに取り組んだシャーロット・パーキンズ・ギルマンの研究。既婚女性はお金の為には働かないのが当たり前だった時代に「新しい母性」を求めて格闘した姿が描き出されている。

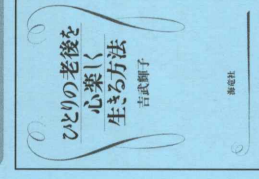


いのちの泉を描いた画家 パウラ・モルダー・ゾーンベッカーの絵画世界

佐藤洋子/著 中央公論美術出版 2008年4月 1995円
20世紀初頭、帝政ドイツの時代、まだ女性が芸術に生きる道は限られていた頃、絵画の道を奮進し、独自の世界をうち出したベッカーの生涯と絵を紹介。



ひとりの老後を心楽しく生きる方法



吉武輝子/著 海竜社 2008年7月 1500円
「病気のデパートのオーナー」を自認する著者。落ち込んで布団をひっかぶっていても、きりっと好きなことをやっていると、痛い時は痛いんだから、きりっと生活しようという。健康的に食べるコツ、おしゃれ、人と仲良く生き合うコツなど、満載。

介護 現場からの検証

結城康博/著 岩波書店 2008年5月 777円
2000年に発足した介護保険。今や高齢者の生活に必要不可欠なものとなったが、「改正」や「運用」をめぐって揺れていることも事実。介護従事者、サービス利用者、行政、家族、政治家等々の現場関係者のインタビューをもとに、何が求められているのかの処方箋を呈示する。財政優先論から脱却しよう。

ケアの思想と実践 シリーズ 全6巻

ケアの「思想と実践」を総合的に理論化しようという野心的なシリーズが完結まじか

編集委員・上野千鶴子 大熊由紀子 大沢真理 神野直彦 副田義也 岩波書店

第1巻 『ケアという思想』 2310円
第2巻 『ケアすること』 2310円
第3巻 『ケアされること』 (8月26日発売予定)
第4巻 『家族のケア 家族へのケア』 2520円
第5巻 『ケアを支えるしくみ』 2310円
第6巻 『ケアを実践するしかけ』 2520円



【メディアア】

テレビニュースの解剖学 映像時代のメディア・リテラシー

小玉美恵子/編 新曜社 2008年3月 1995円



見る人がニュース項目を選択できない、映像が与えるインパクトが大きいなど、テレビニュースには他のメディアとは違う特性があり、人々に与える影響力も大きい。特に「受けとる」だけでなく、アクティブに「読みとく」ことが大切と著者はいう。内容分析の方法もていねいに説明されている。

スポーツとメディア メディア・スポーツで動くというヒースポーツ社会心理学

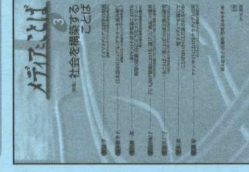
篠田潤子/著

ブレーン出版 2007年11月 1890円



メディア報道はスポーツ普及に大きく貢献した。しかし、報道にみられる人権問題、ジェンダー問題、メディアスポーツの現場の問題など、論じられるべき点も多い。本書は社会心理学の観点から、この問題を考察。

メディアとことば3



岡本能里子/佐藤彰、竹谷みゆき/編 ひつじ書房 2008年3月 2520円

第3巻の特集は「社会を構築することば」。「<女ことば/男ことば>の成立期の研究」(佐竹久仁子)「子ども向け情報における『遊び』と『商品』の境界」(森山由紀子)など。

ネットいじめの真実 大人が知らない

渡辺真由子/著 ミネルヴァ書房 2008年7月 1575円

「ネットいじめ」に火が付き、命を絶つ子どもさえ出てしまっている。その実態を知ると、加害者は軽気持で行っているが、被害者やその家族の人生をめっちゃめちゃにしていることがわかる。子どもも、それをとまりまくり大人や社会も、なんとかしなければならぬ。

ネット
いじめの
真実
渡辺真由子

【セクハラ・暴力】

戦争と性 27



「戦争と性」編集室/編

「戦争と性」編集室

2008年4月 1575円

特集：ヒロシマ・ナガサキが問いかけるもの。関千枝子、栗原淑江、市場淳子など。

ナショナリズムの狭間から 「慰安婦」問題へのもう一つの視座

山下英愛/著 明石書店 2008年7月 2940円



ナショナリズムが力を持つ韓国と日本で、「慰安婦」問題はどうかとえられてきたか。韓国人の父、日本人の母をもつ著者は、自らのアイデンティティの葛藤をみずえる中で、この問題に取り組んできたようだ。ナショナリズムを乗り越え、排除と差別に抗した「アジア連帯」が必要なのではないかと訴える。難しい論点も多いが、柔らかな文体で書かれていて、好感が持てる。

傷痕の真実 監察医の見た児童虐待

河野朗久/著 柴新興医学出版会 2008年3月 2625円

外科、麻酔科医の傍ら大阪府監察医をつとめる著者が、現場での事実を題材に書き下ろした「物語」。法医学的な視点を入れ、児童虐待の実像を伝えたい、と著者。

いくの学園は「みんなのいえ」 ありがとう、10周年

いくの学園/編

いくの学園 2008年5月 1000円



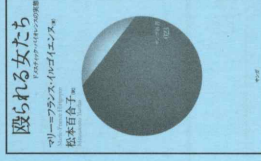
大阪府の婦人保護施設として始まり、1998年に「女のかげこみ寺・生野学園」となり、2001年にNPO法人化した「特い」の学園」の軌跡が綴られている。多くの人に支えられ民間施設になってから10年がたった。

殴られる女たち ドメスティック・バイオレンスの実態

マリ＝フランス・イルゴイエヌ/著 松本百合子/訳

サンガ新書 2008年4月 892円

著者はフランスの精神科医。様々な臨床事例から、暴力の実態やそのシナリオ、なぜ逃げないのか、周囲の者ができることは何かを探っている。女性の身が最も危険にさらされるのは、女性が明確に別れようとした時だそう。心を殴られている間に、DVの被害者であることを自覚することが大切だと、女性たちには説く。



愛は傷つけない DV・モラハラ・熟年離婚自立に向けてのガイドブック



梨の木舎 2008年6月 1785円

著者はニューヨークで活動するDVカウンセラー。Eメール等を通し、国際結婚して夫の国に住む日本人女性たちの相談にのっている。長年の経験を活かして、女性たちにアドバイス。

いじめは犯罪！ 絶対に許さない

いじめから子供を守ろう！ネットワーク/編 (特活)お茶の水学術事業会 2008年6月 500円

「現代のいじめ」は、もはや「犯罪」だという。どうしても子どもたちを守れるか。子どもたちだけの力では、どうにもならないところに来ているという。

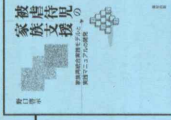
虐待された少年とともに 出会って5年 教師がみつけたこと

平田治/著 一壺書房 2008年4月 2310円

虐待から保護された少年Kと学級担任の先生との交流が描かれている。とことん悩みながら支え続けた担任の先生。虐待を受けた子どもが快復するには、社会はどうあるべきかを教えてくれる。

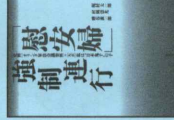
被虐待児の家族支援 家族再統合実践モデルと実践マニュアルの開発

野口啓示/著 福村出版 2008年5月 3940円
不全状態に陥り、児童虐待を生んでしまった家族を再統合するには、どうした支援が必要か。科学的根拠に基づいた実践モデルとマニュアルを呈示している。



「慰安婦」強制連行 【史料】オランダ軍法会議資料×(L)ボ」私は「日本鬼子」の子

梶村太一郎、村岡崇光、糖谷廣一郎/著
金曜日 2008年6月 2835円
第1部：オランダ軍法会議資料 第2部：中国・桂林ルポルタージュ「私は「日本鬼子」の子」(元「慰安婦」の女性と、日本兵に妊娠させられて生まれ「日本鬼子」と呼ばれた息子のインタビュー)



しあわせな明日を信じて 作文集 乳児院、児童養護施設の子どもたち

長谷川真人/監修
日本福祉大学長谷川ゼミナール NPO法「こどもサポートネットあいち」/編
福村出版 2008年7月 1890円

乳児院、児童養護施設で育った子どもたち23人(すでに大人になった人もあるが)が、生い立ち、施設生活、親への思い等を書き、担当した施設職員がコメントをつけている。さらにそのコメントを読んだ研究者たちが感想をつけ、総体で施設に暮らす子どもたちの思いや卒園後の生活実態が伝わるようになっていく。

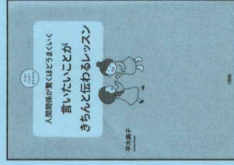
関係性における暴力 その理解と回復の手立て

藤岡淳子/編著
岩崎学術出版社 2008年5月 2940円
「暴力」は「パワーの乱用」という形で、日常生活に偏在している。対人関係における暴力をはっきり見極め、「分断」から「つながり」へ、「共生」へと進んでいくことにしか回復への道はないという。



【こころ・癒し】

言いたいことがきちんと伝わるレッスン 人間関係が驚くほどうまくいく



平木典子/著
大和出版 2008年6月 1365円
「人間関係」は永遠の課題。「自分の言いたいこと」が素直に、おしつけでなく伝わるようになっていたら、随分ラクに生きられるだろう。レッスンを、ぜひ受けよう。

フェミニストカウンセリング研究 2007 vol.6

特定非営利活動法人日本フェミニストカウンセリング学会/編
新水社 2008年3月 1890円



「フェミニストカウンセリング」の取り組みべきテーマを整理する」(周藤由美子)
「部落差別/複合差別とフェミニストカウンセリング」(福岡ともみ)他、インタビューや書評など。日本フェミニストカウンセリング学会の学会誌。

アディクションと家族 Vol.25 No.1

家族機能研究所/編
ヘルスワーク協会 2008年5月 1680円
今号の特集は「暴力・抑うつ・加害と被害…トラウマケアを超えて」



友だちをいじめる子どもの心がわかる本

原田正文/監修 講談社 2008年5月 1365円
世間で騒がれるから「いじめ件数が増えるのでは」という意見もあるらしいが、「いじめ」は現実には、え続け、陰湿になっていくと著者。現代社会には、いじめが深刻化しやすい何かがあるという。



解離する子どもたち ちぎれた心をつなぐ治療

リンダ・シラー/著
郭麗月、岡田章/監訳 ハリス淳子/訳
明石書店 2008年7月 3150円
解離とは「ある事柄の関連性を別の事柄から切り離す」こと。退屈な現実から離れて本に逃げ込んだ



日本の男性の心理学 もう1つのジェンダー問題

柏木恵子、高橋恵子/編 有斐閣 2008年6月 3150円



日本の男性の考え方や行動の特徴を、ジェンダー視点で分析しようとしている。「男らしく」ならねばという思いや「養わなければ」という使命感は、なぜ培われ、どう作用しているのか。男性にもつらい状況は、なぜ続くのか。心理学の分野では、「男性の心理」はおきざりにされてきたのでは、と著者は言う。

弱い自分を好きになる本



香山リカ/著 朝日新聞社
2008年6月 1260円

「強さ」が求められる今の社会。しかし、「弱さ」は大切だと著者は言う。無理に強くなろうとせず、ちよとした工夫で、「柔らかな自分」になれると。

りする「すばらしい能力」なのであるが、(特に)子ども時代に激しいトラウマ状態になると、「長期的な解離性発達障害」に陥ることもあるという。近年、児童虐待が課題化されるにつれ、把握されはじめた障害であり、最優先で取り組みられなくてはならない問題である。

自己評価メソッド 自分とうまくつきあうための心理学

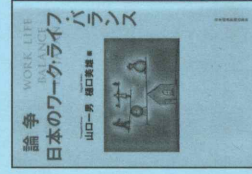
クリストフ・アランドレ/著 高野優/訳
紀伊国屋書店 2008年7月 2310円
自己嫌悪したり、人の欠点を見つけて優越感にひたたり...というわけで、「自己評価」は、日々揺れ動く。本書では、仕事、家庭生活、友人関係等あらゆる場面で私たちの行動に影響する「自己評価」をより有益なものにしていくための方法を、精神科医が呈示。「成功よりも幸せをつかみたい」人は、どうぞ。

自分に向き合う力 人生を創造するためのカウンセリング

新田育子/著 ルネッサンス・アイ/発行
本の泉社/発売 2008年5月 1680円
著者は精神科の看護師だった人で、現在はカウンセリングルームの代表。壊れてしまった人が、その心を取り戻し、立ち直っていく実例を紹介。立ち直る力は、誰の中にも必ずあるという。

〔労働・仕事〕

論争日本のワーク・ライフ・バランス



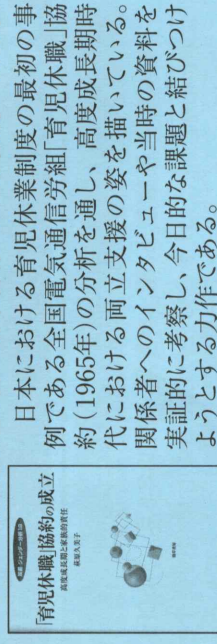
山口一男、樋口美雄/編

日本経済新聞出版 2008年4月 2520円

ワーク・ライフ・バランスへの取組みは喫緊の課題であるが、具体的な進め方、手順についてはいくつかの考え方があある。本書では、ワーク・ライフ・バランスに関する主要論点4点について、意見の違う論者2人による「論争」を展開。課題を浮き彫りにしようとしている。独立行政法人経済産業研究所主催のシンポジウムの熱い議論がもたっている。中味の濃いシンポジウムだったことがわかる。

「育児休職」協約の成立 高度成長期と家族的責任

萩原久美子/著 勁草書房 2008年5月 3675円



日本における育児休業制度の最初の事例である全国電気通信労組「育児休職」協約(1965年)の分析を通し、高度成長期時代における両立支援の姿を描いている。関係者へのインタビューや当時の資料を実証的に考察し、今日的な課題と結びつけようとする力作である。

私は両立!働くママの仕事と育児 たまひよ新・基本シリーズ+α



たまひよ新・基本シリーズ+α

株式会社たまひよ

2008年4月 1575円

保育園探し、育休明け育児、再就職など、「両立」にはいろいろのりこえなくてはいいことが。働くママを応援する1冊。

現代の女性労働と健康 働く者の労働安全衛生入門シリーズ5



北原照代/著 かもがわ出版

2008年6月 1680円

女性労働と健康について、労働の特徴や男女の生物学的違い、母性保護、母性に対する危険要因などの点から、網羅的に記述。巻末資料も豊富。

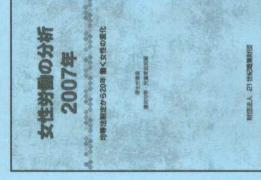
官製ワーキングプア 自治体の非正規雇用と民間委託



布施哲也/著 七ツ森書館 2008年7月 1785円

自治体にも嘱託化、民間委託化が及び、「安定している」と思われた公務員もワーキングプアになる時代となった。「官がつくりだすワーキングプア」とは?

女性労働の分析 2007年 均等法制度から20年 働く女性の变化



厚生労働省雇用均等・児童家庭局/編

(財)21世紀職業財団

2008年6月 1890円

「働く女性の実情」(厚生労働省とりまとめ)と、「女性労働の分析」(財)21世紀職業財団とりまとめ)の二部構成。均等法制定後の働く女性の状況の変化が表れている。

ワークライフシナジー 生活と仕事の＜相互作用＞が変える企業社会



大沢真知子/著

岩波書店 2008年3月 2310円

「シナジー」とは「相互作用」のこと。ワークライフバランスを導入したことで、生産性を高めることができた企業が存在する。生産性とワークライフバランスの「シナジー」は、どのようなものなのか。企業社会を変えていく可能性があると著者。

素敵にサイエンス かがやき続ける女性キャリアを目指して 研究者編

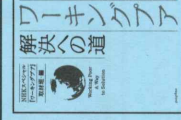


鳥養映子、横山広美/編著

近代科学社 2008年5月 1575円

理工系に進もうと思う若き女性のために、それぞれの経験を通して、9人の先輩がアドバイス。理系にすすむメリットは? 大学を出た後どんな生活が待っている? 理系だということでの不利なことは? などに答えています。

ワーキングプア 解決への道



NHKスペシャル「ワーキングプア」取材班/編

ポプラ社 2008年7月 1260円

NHKスペシャル「ワーキングプアⅢ」の取材に携わった記者やディレクターによるドキュメント。ワーキングプア問題は社会問題なのだという認識を広めた功績は大きい。

〔法律・政治・政策〕

NPOと政治 担い手のために



柏木宏/著 明石書店 2008年3月 2415円

NPO法上の規定が影響しているのか、日本では政治に距離をおくNPO関係者も多い。しかし、そのミッションを考える時、NPOは、NPOなりの政治的な活動への関与があってもよいのではないか。NPOと政治の関連性を理論的、制度的に検討したのが本書。

ポスト消費社会のゆくえ



辻井喬、上野千鶴子/著

文藝春秋 2008年5月 945円

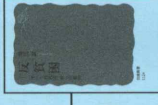
元セゾングループの辻井喬(堤清二)と上野千鶴子の対談。日本の戦後消費社会の象徴的なセゾングループの歴史を考へることににより、ポスト消費社会への手がかりがみえてくる。対談上手の上野のリードにより、興味深く仕上がっている。

女性をめぐる法と政策 改訂版

高橋保/著 ミネルヴァ書房 2008年3月 3675円
生命・身体保護・家庭や雇用における男女平等・性の尊重や生命の保護等、女性をめぐる法・政策を体系的に並べている。

反貧困 「すべり台社会」からの脱出

湯浅誠/著 岩波書店 2008年4月 777円
一度転んだらどんだまでですべり落ちてしまふ「すべ



り台社会」には、ノーをつきつけよう。政府は「日本の貧困」の正確な調査すらしていないではないか!]

きし 転む社会 教育・仕事・若者の現在

本田由紀/著 双風舎 2008年6月 1890円
夢が持てない、将来が見通せないという若者のうめきがきこえてくる現代。「転んでいる」という実感が多くの人に共有され、はつきりとした形として動いていくことにしか希望は見出せない、と著者。最近の論文や論述をまとめたもの。



〔文学・エッセイ・芸術〕

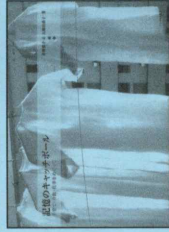
「母」たちの戦争と平和 戦争を知らないわたしとあなたに

源淳子/著 三一書房 2008年6月 1575円
著者は戦前・戦中・戦後をたくましく生き抜き、抜き、現代の思潮を相対化する視点を獲得してきた80歳代の女性たち4人に向き合い、丁寧な聞きとっていく。翼賛体制の青春時代を過ごしなが、自立した生き方、考え方を得るに至った「分岐点」は何なのか。「戦争を知らないわたしたちにとっ、先達の生き方を心に刻みこんでいくことは必須なことなのだと、この本を読んでつくづく思う。



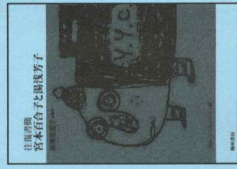
記憶のキャッチボール 子育て・介助・仕事をめぐって

青海恵子 & 大橋由香子/著 インパクト出版会 2008年5月 2310円
車椅子を使い、翻訳の仕事をしたがらパートナラー+子ども1人と住む青海と、(今のところ)健康者で、フリーのライターをし、パートナラー+子ども2人と住む大橋由香子の往復書簡。テーマは、育児、介助、労働など。強烈なる共通点は、2人とも「女」であること。



往復書簡 宮本百合子と湯浅芳子

黒澤亜里子/著 翰林書房 2008年3月 5250円
1924年から31年にかけて交わされた、20代後半の宮本百合子と湯浅芳子(ロシア語翻訳家)の往復書簡集。2人の共同生活は、周囲の好奇な目をうけなが、濃密に進んでいったようだ。その辺の解題は併録の「Y・Y・カンパニー論」に詳しい。



女は胆力

園田天光/著 平凡社 2008年4月 798円
日本初の女性代議士として当選。その後も各方面で活躍する89才の著者。生き方の極意は「胆力」。「胆の力」があると、「どんなに運気の悪いときでも、いつでも一から始められます」という。



絵筆をとったレディ 女性画家の500年

アメリカ・アレナス/著 木下哲夫/訳 淡交社 2008年3月 2625円



女性が周縁部に置き去られた時代を経て、今や、女性美術家たちは大いなる地位を占めている。この500年の「絵筆をとったレディたち」の流れをみると、その飛躍ぶりを認識するが、記者によると、ここにあげられた画家のほとんどが、日本ではあまり紹介されていないという。

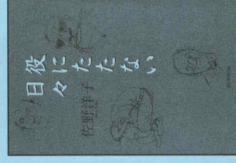
女優の誕生と終焉 パフォーマンスとジェンダー

池内靖子/著 平凡社 2008年3月 3780円
日本近現代の演劇・パフォーマンスをジェンダー論の視点から考察している。松井須磨子、貞奴などの「女優」の身体表現や60～70年代のアンデラ演劇におけるジェンダーの扱いについてなど、様々な興味深い考察が並ぶ。最近の著者の仕事の集大成といえよう。



役にたたない日々

佐野洋子/著 朝日新聞出版社 2008年5月 1575円
絵本作家であり、すっかりしたエッセイでファンも多い著者。『小説トリッパー』に連載した小文が、単行本化された。「68才は閑である」といいながら、「思っではならぬ事を思いたい」という。



ダイバーシティ 生きる力を学ぶ物語

山口一男/文 森妙子/挿絵 東洋経済新報社 2008年7月 1890円
人材活用の多様性という意味で使われることが多くなった“ダイバーシティ”であるが、ここでは本来の意味である「生き方の個性」のような意味で使われている。出てくるのは社会科学のファンタジー「六つのボタンのミナとカズの魔法使い」と教育劇「ライオンと鼠」。架空の物語を通じて、現代の日本の社会に何が必要なのかを訴えている。「小説としての社会学」と銘うっているが、興味深い試みである。



わたちの記憶 <近代>の解体と女性文学

岡野幸江/著 双文社出版 2008年4月 2625円
樋口一葉から川上弘美までのおおよそ1世紀にわたる文学作品13編の中の「わたちの記憶」を探り、それによって「近代」を考えようとしている。

ジョアンナに乾杯3

比企俊太郎/著 生活思想社 2008年7月 1575円
このシリーズ3冊目。3人の男たちが共同で始めた子育てであるが、その中の1人が死亡。元ヤクザの龍三とアル中の産婦人科医慎一は、2人で一二三を育て、一二三は小学生に。養護施設から「弟」もやってくる。一二三が熱中する柔道を通して、スポーツ界のジェンダー問題もみえてくる。



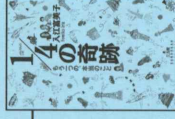
ひとりを選んだ女性たち ありのままの自分を受け入れ、心豊かに生きるために

フローレンス・フォーク/著 真鍋三紀子/訳
 パーソナルケア出版部 2008年5月 2310円
 著者はニューヨーク在住の心理セラピスト。カウンセリングを受けにくる女性たちのほとんどが、ひとりになったら失敗するだろうと思ひこんでいるという。「ひとりには可能性がある」「ひとりにになれるのは幸運なことだ」と著者はいう。



1/4の奇跡 もう1つの、本当のこと

入江富美子/著 三五館 2007年12月 1575円
 映画制作経験ゼロなのに、一念発起。ホームビデオ片手にドキュメンタリー映画を撮影。全国で上映会を重ね、感動の輪を広げている著者。そのてんまっが、本になった。



私の居場所、どこにあるの？ 少女マンガが映す心のかたち

藤本由香里/著 朝日新聞出版 2008年6月 945円
 60年代末から90年代末頃までの少女マンガの変遷を、恋愛、性、家族、仕事などのテーマにそって追っている。女性たちの少女マンガへの「共感」の変化をフォークラスすると、この30年間の女性たちの意識の変容がみえてくる。

わたし、男子校出身です。

椿姫彩葉/著 ポプラ社 2008年6月 1260円
 男であることに違和感を持ち続けた著者。戸籍の性別転換をし、女子大生として大学に再入学を果たすまでの軌跡をつづっている。



女性俳句の光と影 明治から平成まで

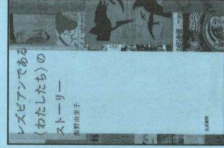
宇多喜代子/著 NHK出版 2008年7月 1365円
 明治・大正・昭和を生き、戦争の理不尽さ、個性の圧迫、家族や男女間の愛憎等で煩悶した女性たちを俳句という表現に向かわせた力は何だったのか。男性たちによって進められてきた俳句の世界で、女性たちはどのようなして俳句をつくってきたのか。「俳句しかなかった」先輩俳人たちの「光と影」に、敬意を



〔セクシュアリティ〕

レズビアンであるくわしたたちのストーリー

飯野由里子/著 生活書院 2008年4月 2310円
 テーマは「日本のレズビアン・コミュニティ」。ウーマン・リブ運動からレズビアングループが誕生し、いわゆる「アイデンティティ・ポリティクス」に至るまでを、あるレズビアン女性のライフストーリーと重ね合わせて書いている。今まで、充分に触れられてこなかったテーマだと思う。



季刊セクシュアリティ No.37 人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌

人間と性教育研究協議会/編
 エイデル研究所 2008年7月 1500円
 37号の特集は「もっと性教育」。編集長鼎談「性教育、その豊かさ」と無限の可能性」(浅井春夫、今野比呂美、関口久志)など



思春期の性 いま、何を、どう伝えるか

岩室紳也/著 大修館書店 2008年5月 1680円
 著者は泌尿器科医。長年エイズ教育、性教育にたずさわってきた。本書では、コミュニケーション能力の構築に力点をおいて、思春期の性と生きる力について述べている。科学的知識だけを伝授しても若者の性に関する態度を望ましい方面に導くことはむずかしいという。

続・いまく生きる底力>を子どもたちに！
 性教育バッシングに物申す



河野美代子/著 十月舎/発行
 星雲社/発売 2008年7月 1785円
 一貫して性教育の大切さを説き、平和や人権の確立を求めて国会議員にも立候補した著者の最新エッセイ&トーク。<性教育バッシング広島裁判>資料集付。

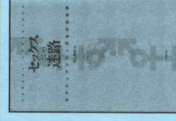
AV神話 アダルトビデオをまねてはいけない



杉田聡/著
 大月書店 2008年8月 1785円
 たくさんのAV (アダルト・ビデオ)を批判的に検証し、AVが醸成するセックス神話、レイプ神話、女性(男性)神話を紹介。神話から自由になるための方策を呈示する。「最終的な被害は女性を受ける」という。

セックスという迷路 セクシュアリティ文化の社会学

井上芳保/編 長崎出版 2008年5月 2310円
 障がい者の性、ラブピースクラブ、セックスワーク、人身売買など、セックスにまつわるテーマを、それぞれの書き手が掘り下けている。人はなぜセックスをするのか、なぜセックスを必要とするのか。さっぱり自由学校「遊」での連続講座「自分らしい『性』を生きる」がもとになっているという。



セクシコン 愛と性について デンマークの性教育事典

オーエ・ブランド/著 近藤千穂/訳

新評論 2008年8月 3940円

デンマークで広く使われている恋愛やセクシュアリティのガイドブックが翻訳出版された。デンマークでは1970年以降、性教育が必須科目になっており、今では「健康教育・性教育および家庭学」として位置づけられているという。日本の感覚からするとドキッとするようなイラストも挿入されているこの本、学校

現場や地域で、大いに活用されているようだ。多様な視点をうけられ、多角的に考えることを伝えている。

自分をさがそ。 多様なセクシュアリティを生きる

杉山貴士/著 新日本出版社 2008年6月 1470円

著者は、高校2年の時、自分がゲイだと気づいたそうだ。悩みぬき「ありのままの自分でいいんだ」と気づいた著者が、10代の若者たちに語りかけるメッセージ。「自分の性を大切に」

【からだ】

思春期の月経 もっと知りたい自分の体

堀口雅子/監修 板津寿美江、江角二三子、鈴木幸子/著

少年写真新聞社 2008年3月 1995円

月経は、妊娠・出産世代の女性にとって、大切な健康のバロメーター。思春期の子どもたちの周囲には、テレビ、インターネットなど限りない情報があふれているけれど、正しい知識を身につけよう。



フイメールアスリートバイブル スポーツをする女性の健康のために

鳥居俊/編著 NAP 2005年11月 3150円

女性としての身体をきちんと理解した上で、指導がされているか、女性アスリートの引退年齢が男性より早い傾向にあるのはなぜか、女性アスリートと男性アスリートを別に扱うことは不自然なのか、など。女性が「ハッピーアスリート生活」を送るための論点がいっぱい。



プルミエール 私たちの出産

マリ＝クレール・ジャヴオイ/文
メ・ジュアン・プロダクション/写真山内恵理子、岩澤雅利/訳
ランダムハウス講談社
2008年4月 2100円

タンザニア、日本、フランス、インドなど世界9ヶ国の女性9人の出産ドラマを追ったノンフィクション。砂漠のデントで、イルカの泳ぐ水中で、コミュニティで、それぞれのカの文化、慣習、生き方のも多種多様な輝きを放つ生命の姿。

PMS(月経前症候群)とうまくつきあう

丸本百合子/著

保健同人社 2008年6月 1417円



同じ月経不順でも、更年期障害とPMSは似て非なるもの。テレビで言われるような「若年性更年期」というのは間違っているという。正しい知識を得て、セルフケアしていこう。「治す」より「つきあう」のが、PMSであるようだ。

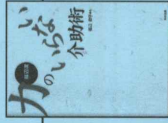
自分で見つける乳がん 自己検診&定期健診で早期発見

尹玲花/著 2008年4月 1575円

力のいらない介助術

福田節子/著 中央法規 2008年5月 2100円

介助される人自らの力を引き出し、動いてもらう介助をわかりやすく説明。著者自身が、義足をつけている理学療法士。「介助には力はいらない」という。



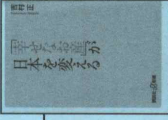
夢を叶える！更年期レッスン ここから始まる本当の人生

宮西ナオ子/著 日本教育研究センター 2008年6月 1260円

「幸せなお産」が日本を変える

吉村正/著 講談社 2008年4月 840円

著者は名古屋で産院を経営し、古い民家で「お産の家」を設立。人工的出産を排除した「自然なお産」を推奨している。



高齢社会白書 平成20年版

内閣府/編 佐伯印刷株式会社 2008年6月 1890円

高齢化の状況、高齢社会対策の実施状況がまとめられている。特に取り上げられているのは「高齢社会における仕事と家庭の調和」。高齢者には支えられるイメージが強いが、その活力を活かす施策も必要とされている。



男女共同参画白書 平成20年版

内閣府男女共同参画局/編

佐伯印刷株式会社 2008年6月 2700円

今年は「仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス)」元年とのこと。さらに特集では「地域における女性の活躍」とりあげ分析している。



人間開発報告書 2007/2008 気候変動との戦い

国連開発計画(UNDP)/編

二宮正人、秋月弘子/監修

阪急コミュニケーションズ

2008年6月 5775円



国連の機関である国連開発計画が毎年出している「人間開発報告書」。世界130以上の国々で作成され、地域別報告書も刊行されている。今号のテーマは「気候変動との戦い」。よく引用される「ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)」も、ここで発表される。日本は人間開発については第8位の高位国ながら、男女平等では54位まで後退。

〔子育て・教育〕

親の愛は、なぜ伝わらないのか!?

佐久間真弓、藤崎りょう/著 宝島社 2008年4月 1400円



著者たちは、当時15才の少年が両親を殺害し、自宅を爆破した「板橋両親殺害事件」取材。「不適切な養育」を受けていたとされた少年であるが、懲役12年の刑が科された。親の「愛」はなぜ伝わらないのか、なぜ「愛」が「反逆」となって返ってくるのか? 本事件は、特異なものではないのだと指摘する。

子育て支援と世代間伝達 母子相互作用と心のケア



渡辺久子/著 金剛出版 2008年8月 3360円
著者は臨床経験35年。精神保健を考えるNPO法人代表でもある。2冊目の論文集である本書は「母子相互の関係性とその世代間伝達とサポート」という視点からの論文が集められている。

命のたいせさを学ぶ性教育

上田基/編著 ミネルヴァ書房 2008年3月 1890円
執筆者は、臨床心理士、中学校教諭、医者など。多様な視点から、思春期の性教育について、基本を語っている。最終章には「携帯電話の使い方」「まさか妊娠?」など、「親たちの心配事」についてのアドバイスも。

よくわかる子育て支援・家族援助論

大豆生田啓友、太田光洋、森上史朗/編
ミネルヴァ書房 2008年5月 2520円

子育てには保育政策の他、家庭訪問、子育て支援センター、地域の子育てひろば等、実に多様な支援が必要である。本書では、子育て家庭の状況や子育て支援制度の実際、トータルな家族援助のあり方に言及。保育士をめざす学生や、現場の保育者向けとあるが、それ以外の人にとっても、子育て支援を鳥瞰できて有益。

離婚家庭の子どもの気持ち アンケートとインタビュー



日本加除出版(株) NPO法人Wink/編
2008年4月 1995円
編者のWinkとは、「子どもの健全育成と大人世代の責任の全う」を掲げたNPO法人。子どもの聞き取り調査も含んだ、離婚に際しての面接交渉の実態調査をもとに、離婚後の親子関係の修復を論じている。

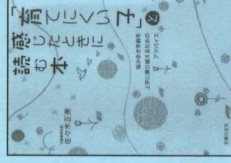
家族の経済学 お金と絆のせめぎあい



橋本俊詔、木村匡子/著
NTT出版 2008年3月 3360円
「家族」として、愛情や絆は大きな意味をもつが、お金のモンダイも重大事。お金は「家族」にまつわる事象にどのような影響を与えるのか。結婚、離婚、出産、教育といった様々な角度から、経済的に家族を分析。

「育てにくい子」と感じたとき読む本

佐々木正美/著
主婦の友社 2008年7月 1365円



「子どもを変えよう」と思ったたら大変。「親が望むような子にしよう」ではなく「子どもが望むような親になろう」とするのが、いちばんいい方法、と著者。

育児不安の国際比較



深谷昌志/著 学文社 2008年5月 2100円
「育児不安」について、東京、ソウル、台北、天津で調査・比較している。育児不安は、どの地域の母親にも普遍的に認められる一過性の性格をもつものであるとことだが、社会・文化的な要因が、大いに関連していることが読みとれる。

フィンランドに学ぶべきは「学力」なのか! かもがわブックレット169

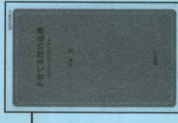
佐藤隆/著 熊本市子育て教育文化運動交流会/編
かもがわ出版 2008年7月 630円



フィンランドの教育に学ぶべきことは、「学力」というより、それを支える社会が共有している思想や生き方であると著者は言う。

子育て支援の危機 外注化の波を防げるか

前原寛/著 創成社 2008年6月 840円



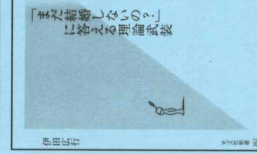
「子育て支援」の名の下に、「外注化」の波がおよせ、保育者自身もその中に組み込まれているが、ほんろうされるのは子どもであると著者。子育て支援の大きな柱である保育園の現場でおきている「外注化」の混乱をとりあげている。

母は娘の人生を支配する なぜ「母殺し」は難しいのか



斎藤環/著 日本放送出版協会 2008年5月 966円
母親と娘の関係は、単に「錯綜」というだけではすまないような複雑怪奇な様相を呈するという。臨床ケースや事件報道、少女まんが等を通して、娘にとつての「母殺し」の困難さを検証する。同性同士の「開かれた関係性」を提唱。

「まだ結婚しないの?」に答える理論武装



伊田広行/著 光文社 2008年7月 922円
結婚圧力、結婚幻想に「反撃」するための1冊。「結婚したい/したくない」の背後には「精神的自立」という人生の大問題が横たわっていると著者。深いところまで考え、苦笑いでもかわさずに、「反撃」しよう!! もやもやしている人、元気になるかも。

現代世界の結婚と家族

(財)放送大学教育振興会 宮本みち子、善積京子/著
現代の結婚と家族の動向を比較文化の視点で考察。
結婚や家族の動向は、現代社会を見直す大きなテーマである。21世紀の社会は、「家族」「結婚制度」といった親密な関係構築のためのシステムが大きな揺らぎをみせている時代なのである。

55歳からの離婚計画 これからは自分のために生きていく

中村久瑠美/著 講談社 2008年3月 1470円
第1章では、年金分割第1号を勝ち取ったA子さんの離婚に至った経緯を紹介。第2章以下で、ハッピー・シングル・アゲインに向けての法的知識や課題、ハウツーをおさらいしている。

家族と子育ての社会学

石井秀夫/著 八千代出版 2008年4月 2100円
「家族」という、生まれて初めて出会う集団で、私たちはどのように成長していくのか。「家族」とは、子どもの養育にとって何なのか。

既婚女性の就業とネットワーク

安河内恵子/編著 ミネルヴァ書房 2008年2月 6825円
福岡市、岡山市、徳島市の3都市における調査をもとに、結婚した女性の就業とパーソナルネットワーク（近親の存在、近隣との付き合いなどの）の関係を論じている。

雇用流動化のなかの家族 企業社会・家族・生活保障システム

船橋恵子+宮本みち子/編著
ミネルヴァ書房 2008年3月 2940円
長期不況の10年を経て、格差も拡大し、不安定化している社会の中で、家族システムはどう変化してきたか。本書では社会、経済システムと家族システムの関連性が論じられている。雇用流動化、就労、高齢化、IT、生活保障システムなど、あらゆる局面が「家族の変容」と関係しており、その「変化」は大きい。

恋愛の社会学 「遊び」とロマンティック・ラブの変容

谷本奈穂/著 青弓社 2008年4月 1680円
現代社会を考える上での「核心」のひとつでもある恋愛。本書は、この恋愛を、現代ポピュラーカルチャーに注視して考察する。

家族心理学と現代社会 家族心理学年報26

日本家族心理学学会/編集
金子書房 2008年6月 3310円
1983年以来、毎年発行されている学会誌であるが、今号は学会設立25周年記念号。第1部「家族心理学の現在」 第2部「家族心理学の展開」

〔平和・開発・エコロジー・雑誌〕

DAYS JAPAN Vol.5 No.6 No.8



機デイズ・ジャパン 広河隆一/責任編集
No.6 特集は「処分されるペットたち」。
その他、北京オリンピック聖火リレーや映画「靖国」上映中止問題を取り上げている。
No.8 特集は「アイヌ 失われた歴史をどう偲うのか」。

New Internationalist JAPAN No.99、100、101



ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン編集部/編
インディリンクス/発行 汐文社/発売
2008年6月 630円
99号 特集「ビルマー変革の時」
100号 特集は「環境問題という核廃絶の突破口」
101号 特集は「石油依存社会への提言」

生活環境主義でいこう！ 琵琶湖に恋した知事

嘉田由紀子/語り 古谷桂信/構成
岩波ジュニア新書 2008年5月 819円
高校の修学旅行で琵琶湖にめぐりあい、琵琶湖研究所研究員や琵琶湖博物館統括学芸員を経て滋賀県知事に当選した嘉田由紀子さんの「生活環境主義」を紹介。嘉田氏本人の語りをもとに構成している。

あごら35年に想う あごら新宿発 318号

あごら新宿/編 BOC出版 2008年4月 1050円
特集「あごら35年に想う」では、たくさんの人々が「あごら」への想いをつづっている。70年代から続く、数少ない女性発の雑誌である。

季刊ピープルス・プラン42

ピープルス・プラン研究所/編
ピープルス・プラン研究所 2008年5月 1365円
特集は「破綻する新自由主義、どう決別するか」

インパクション 163 164



インパクト出版会/編
株インパクト出版会
2008年5月・7月 1365円
163号 特集：沖縄 何が始まっているのか。「家父長制と軍事主義、そして女性たちの抵抗」(秋林こずえ)など
164号 特集：大崩壊へ向かう司法

雨宮処凛の闘争ダイアリー



雨宮処凛/著
集英社 2008年5月 1470円
「プレカリアート」活動家たちの素顔と活動の様子を、ライブみたいになに「生きる」ために企みはじめた若者たちの姿。

編集長の著者インタビュー

『認知症予防ゲーム〜テキスト』

高林実結樹/著 NPO法人認知症予防ネット/発行
ウィメンズブックスストアゆう/発売 2008年7月 1050円

B5判120ページの、決して派手ではない、イラスト付き「テキスト」なのだけれど、問い合わせが続々と入ってくる...という不思議な冊子をご紹介します。

「あかるく あたまを使って あきらめない」の頭文字の「3つのA」とって命名された「スリーA」という「認知症予防教室」(所長・増田未知子氏)の内容をテキストとしてまとめたものである。

教室の主宰者ではなく「共感者」がまとめたという点で興

著者インタビュー 第30回

『認知症予防ゲーム〜テキスト』の著者

高林実結樹さんに聞く

NPO 法人認知症予防ネット理事長



——：テキストづくりというのは、考える以上に難しいのではないですか？

高林：「間違っって伝わったら困るな」と思い、当初は、テキスト作りを躊躇していました。でも、文章化して言葉で伝えないと、教室の現場に來られた方より外には伝わらない...増田さんは教室やデイサービス、研修会を主宰することに専念されていたので、私がやってみました。大変でしたが、一緒に活動する仲間たちがアドバイスをくれて、なんとか仕上がりました。増田さんも喜んでくださったので、ひと安心です。

——：苦心したところはどこですか？

高林：ゲームの内容や進め方だけでなく、どんな雰囲気で、

味深い、と思う。学ぶ側に充分配慮された分かりやすい冊子に仕上がっている。

「ほけ」ではなく「認知症」と呼ばれるようになった今も、「一旦なったら治らない」と考えている人はまだ多いのでは？そういう方は、この冊子を是非どうぞ。

「人は優しく変わる」「優しさをシェアワーのように浴びせよう」など、日常生活に使えるヒントも満載されていて、嬉しい。(M)

どんな言葉かけが必要かを伝えたいといけません。そこが大変でした。

——：「ポストの数ほど教室を」とおっしゃってしまいますね。

高林：そうです。日本中に「認知症予防教室」のことを広めたい。

30年も前になりましたが、認知症初期段階だった母が、「頭がぼおとするから治してほしい」と訴えたのです。でも当時は「ぼけたらおしまい」というのが常識でしたから、母をそのままおくってしまいました。母が亡くなってから、ある雑誌で「スリーA」のことを読んで、「これだ!」と思ったのです。

——：認知症は治る?...

高林：周囲の対応によって、進行をゆるめることはできると聞きますが、スリーAのように記憶力が戻る理由の医学的な検証はまだです。認知症を持ちながらでも在宅でいきいき明るく生活できたら、本人ばかりでなく、家族にも公的財政面にも、大きな幸せです。私たちNPOは、「スリーA予防教室」の勝手連だ(笑)と言って、仲間とともに動いているのです。

(聞き手：森屋裕子)

〔絵本・こども〕

ばいばいおねしょまん

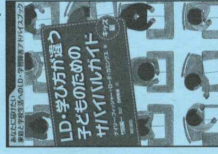


のぐちふみこ/さく・え

明石書店 2008年5月 1680円

著者は、児童養護施設に勤めていた。たくさんの子どもとともに生活する中、「おねしょ」にどう対応しようかと悩んだ末、できたのがこの絵本。

LD・学び方が違う子どもたちのためのサバイバルガイド あなたに届けたい家庭と学校生活のLD・学習障害アドバイスブック



デیلیー・フィッシャー+ローダ・カミングス/著

竹田契一/監訳 西岡有香/訳

明石書店 2008年7月 1470円

LDの子どもたちに向けて、「学び方が違うんだ」ということを認識して、サバイバルしていくためのガイドブック。

走れ ひばく電車



まさきかずみ/文 しげとうさちよ/絵
ひろしま女性学研究所 2008年2月 1050円

63年前、一発の原子爆弾で廃墟となった広島のみち。そこを走っていた電車もこなごなになつたり、壊れたり。でも修理され、中の2両は、今でも“現役”で、広島のみちを走っている。

タンタンタンゴはパパふたり

ジャスティン・リチャードソン&ピーター・パーネル/文
ヘンリー・コール/絵 尾辻かな子、前田和男/訳
ポット出版 2008年4月 1575円



2人のお父さんに育てられたペンギン、タンゴのお話。ニューヨーク、セントラルパークの動物園での実話がもとになっている。

ミニコミ

ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の新着情報です

<単発もの>

- **現代女性のストレスとその影響**
特定非営利活動法人のサポート・ステーション/編集・発行
2008年3月 525円
現代女性の抱えるストレスと、それが日常生活や社会生活に及ぼす影響について、近畿在住の15歳以上の女性を対象にアンケート調査したまとめ。
- **支援に関わる人のために 性的虐待の被害にあった子どもへの虐待**
性と身体を考えるネットワーク会議/編集・発行
2008年3月 1050円
あらゆる女性への暴力防止に向けて、被害を受けた女性の支援に関わる人のために行われた2回にわたる研修の研修報告と資料。
- **マンガ雑誌の「性」情報と子どもたち** 今、旬のSexual Rights教育はコレ! NPO法人SEAN/編集・発行
2008年3月 1890円
子どもたちの「性」に関する意識や情報源を調査しその内容を分析。今、子どもたちに必要な教育は何かを考える。
- **2007年度オゾンブズマズン活動実績 主な対応事例**
特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構・大阪/編集・発行
2008年6月 735円
介護老人福祉施設の入居者からの要望・思いなどを聞き取り調査した事例報告・介護体制・生活環境・金銭管理等10以上の多岐にわたる項目についての報告。
- **2005年度オゾンブズマズン活動実績事例分析**
特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構・大阪/編集・発行
2008年6月 525円
聞き取り調査した事例を対象に、改善されたこと・見えてきたことなどを分析した報告書。

<ミニコミ取扱い希望の方は、お問い合わせください。>

- **Voices of Ah-Ma 台湾・旧日本軍性奴隷被害女性の声**
国同時証言集京都実行委員会/編集・発行 2007年11月 420円
台湾の3名の被害女性の証言と、台湾の支援団体の活動紹介など。
- **李容洙さん証言録 「わたしは歴史の生き証人」旧日本軍性奴隷被害女性の声**
全国同時証言集京都実行委員会/編集・発行
2005年10月初版 2007年9月3刷 525円
韓国の被害女性 李容洙さんの証言と京都実行委員会の紹介など。
- **女性情報ゼミナール2008報告書 私たちが紐とぎ、紡ぎ、創る女性情報 女性情報を社会資源とするために**
LEO-NET/編集・発行 2008年8月 525円
2008年5月ドーンセンターにおいて行われたゼミナールの講義録とワークショップのまとめ。
- **借金にさよならした私たち 多重債務体験者5人からのメッセージ**
NPO法人女性自立の会/編集・発行 2008年7月 500円
多重債務から再生した5人の女性たちからのメッセージ。人生をやり直すためには「きつかけ」ではなく、その心のうちにある「原因」の解決が必要だと。
- **相談窓口で困らないためのセクシュアル・ハラスメント相談対策マニュアル**
特定非営利活動法人フェミニストカウンセリング東京/編集・発行
2008年3月 525円
改正男女雇用機会均等法に即した対応についての、相談員向けのマニュアル。具体例が豊富で巻末には申立書等のひな型も。

<シリーズもの>

- 入記Ⅱ ほか
セクシャルハラスメントと闘う労働組合はあぶる 2008年5月・6月 210円
■ **「はらっぱ」 No.285 「放課後子どもプラン」の導入で、子どもたちの放課後は／286 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の改訂現場の声をきく／287 わたしと沖繩をつなぐもの ほか**
社団法人子ども情報研究センター 2008年6月・7月・8月 735円
- **「パワーアップニュース」VOL.57 そよ風のように病棟を廻るひと** キャスリン・ライリーさんととの出会い
パワーアップ・プランニング 2008年7月 315円
- **「ひとりから」第38号** 世界中のグラウンド・ゼロ(連載) 定時制南葛高校の教師と子どもたち ほか
編集室ふたりから 2008年6月 1050円
- **「ファイア・バック」Vol.74 性暴力禁止法制定に向けてー「強姦罪」を考える ほか** 性暴力を許さない女の会 2008年7月 525円
- **「フイファイネット」VOL.26 「支持率80%」に抗してきた「好きやねんドーンセンター」の会」 ほか**
NPO法人フイファイネット 2008年7月 525円
- **「フェミニストカウンセリングニュース」No.63 第7回日本フェミニストカウンセリング学会 京都大会特集／64 京都大会シンポジウム 被害当事者の立場で参加して ほか**
日本フェミニストカウンセリング学会 2008年5月・7月 315円
- **「Voice」173号** 2008.3.11法務省交渉報告／174号 素晴らしい! 国籍法憲法違反一最高裁判決! ほか
なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2008年6月・8月 210円
- **「VOICE OF WOMEN」No.292 「おしゃれ」の権力、それから「フェミ・ジャケット」／293 リレー・エッセイ「根強い中絶の是非論」 ほか** 日本女性学研究会 2008年6月・7月 158円
- **「月刊むすぶ」No.448 風力発電はこれによいか／449 問題あり 設楽ダム計画ははつきり言っておきたい／450 今里 哲という生き方 ほか** ロシナンテ社 2008年2月・3月・4月 840円
- **「メンズネットワーク」No.88 再び・男のフェスティバル②**
メンズセンター 2008年7月 525円
- **「れ組通信」No.247 カナダへの移住「59歳の出発」／248 大切なひととはセックスしない(2)／249 カナダへの移住「59歳の出発」②**
れ組スタジオ・東京 2008年5月・6月・7月 525円
- **「女(わたし)のからだから」No.266 連続講座第5回「女性障害者の運動と女性の運動」報告 前半／267 連続講座第5回「女性障害者の運動と女性の運動」報告 後半／268 「G8女性の人權フォーラム」in札幌 参加の感想・報告 ほか**
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2008年5月・6月・7月 315円
- **「TWA13(わいわいわい)」25号 特集 健康論**
わい3編集部 発行人 味沢通明 2008年5月 420円

- **「あなたとわたしと性」82号** 特集：知っていますか？ デートDV／83号 特集：発達障害児・者への理解と支援／84号 特集：あかちゃんポストがつきつづけるもの／85号 特集：いまこそ、性教育を！
性を語る会 2007年夏・秋・冬 2008年春 525円
- **「いこ☆る」第16号** 特集：いこ☆る第5回総会 改正パート法と当事者たちのたたかい ほか
働く女性の人權センターから見る住まい・居住権
アジア女性資料センター 2008年6月 1260円
- **「Vol.10(ウォロ)」435号** 特集：「自治」と市民センター／436号 特集：キャンペーンはまのなか／437号 特集：マンガで市民活動！
社会福祉法人大阪ボランティア協会 2008年5月/6月/7・8月400円
- **「わたたちの21世紀」No.54** 特集：ジェンダーから見る住まい・居住権
アジア女性資料センター 2008年6月 1260円
- **「女のためのクリニクニュース」No.277 6カ国における出産とマタニティ・ケアの現状をきいて／278 安全な妊娠中絶へのアクセスを実現する世界会議に参加して①／279 安全な妊娠中絶へのアクセスを実現する世界会議に参加して②**
ウィメンズセンター大阪 2008年5月・6月・7月 420円
- **「おんなの叛逆」55号** 特集：性暴力 韓国のとりくみ
久野綾子 2008年6月 420円
- **「教会と女性」第二十集** あなたはほんとうに解放されていますか？
神奈川教区性差別特別委員会・婦人問題小委員会 2007年9月 525円
- **「くらしと教育をつなぐWe」154号** 特集：「違い」を認めながら連帯すること／155号 風穴をあけよう
フェミックス 2008年6月・8月 800円
- **「Green Letter」VOL.50** つぶすな! ドーンセンター 大阪の財産を守るために立ち上がる女性たち ほか
大阪心のサポートセンター 2008年8月 525円
- **「SEAなっと!」vol.18** 特集：大阪府ジャンプ助成事業
NPO法人SEAN 2008年6月 210円
- **「消費者情報」No.392** 特集：分ければ資源! ? リサイクルを検証する／No.393 特集：消費者法ファイル2008
(財)関西消費者協会2008年6月・7月 500円
- **「職場の人權」52号** 正念場に立つ労働政策 ほか／53号
シングルマザーの自立をめぐる諸問題 ほか
研究会「職場の人權」 2008年5月・7月 840円
- **「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 NEWS」Vol.11** 関西活動報告
NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 2008年6月 420円
- **「世界女性会議 ネット関西ニュース」No.71 「ドーンセンター」は地域のセンターとともに** 今「すてっぷ」でおきていること ほか
世界女性会議ネットワーク関西 2008年7月 630円
- **「それゆけ女たち」No.174 「パート潜入記」／175 「パート潜**

ウィメンズブックス

WB からの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストア 5・6・7月ベストセラーTOP 5

1 アサーティブトレーニング BOOK
小柳しげ子 与語淑子 宮本恵/共著 小澤亜美/イラスト
新水社 1890円

2 変革期に生きる女たち
竹中恵美子/著 ウィメンズブックスストアゆう/発行
松香堂書店/発売 1050円

3 男女共同参画白書
内閣府男女共同参画局/編 佐伯印刷株/発行 2700円

4 情報からの自立
結城美恵子&「女性と情報」プロジェクト/著
ユック舎/発行 2940円

5 認知症予防ゲーム
高林実結樹/著 NPO法人認知症予防ネット/発行
ウィメンズブックスストアゆう/発売 1050円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込みください。下記の送料共でお振込みくださいますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〔送料〕

書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料

書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円

個人会員

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

WEBショップ 展開中

<http://www.womens-books.jp>

(新刊案内 ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃプログラム更新中)

メルマガ

発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jp
までどうぞ

〃 自費出版承ります。ご相談ください。〃

店舗 **ウィメンズブックスストア ゆう**

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49 ドーンセンター1F

電話 **06-6910-8627** FAX **06-6910-6115**

E-mail info@womens-books.jp

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
個人会員 3000円
海外会員・団体会員 3800円

女性センター、女性政策課、 研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーディネートなど

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。

次号の締め切りは**2008年11月5日**です(発行予定日2008年11月25日)

■'ゆう'だより

◎ 北京オリンピック、真最中ですが、松香堂時代からの会員である小関礼子さんからおたよりをいただきました。娘さんの小関桃さんが、この夏、国内初の女子ボクシング世界タイトル戦に挑戦されるそうです。オリンピックに女子ボクシングが採用されることは残念ながら見送られました。が、プロの世界でがんばられるとのこと、楽しみです。

◎ 大阪府臨時府議会が終わり、2008年度の本格予算が滑り出しました。橋下知事の打ち出した「大阪維新プログラム」の実際の効果が始める8月です。ドーンセンターの土地建物の売却はなくなりましたが、施設は青少年会館の機能をあわせる形で多機能化されます。センターを運営してきた大阪府男女共同参画推進財団は、2010年4月から自立化、すなわち自主運営化ということになりました。

多機能化の姿も、自立化の実際も、まだ具体的にはみえていないのですが、すでに、情報ライブラリーの夜間オープンが大幅になくなり、事業数も減って、ちよっと寂しい感じ。

◎ 写真は、本日のウィメンズブックスストアです。かわりばえない、いつもの写真だというなかれ。今の時代、「いつもと変わらない」ことは、かなり重要なことなのです。



(森屋裕子)

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時

土・日：午前11時から午後6時30分

定休日：月曜 ドーンセンター休館日